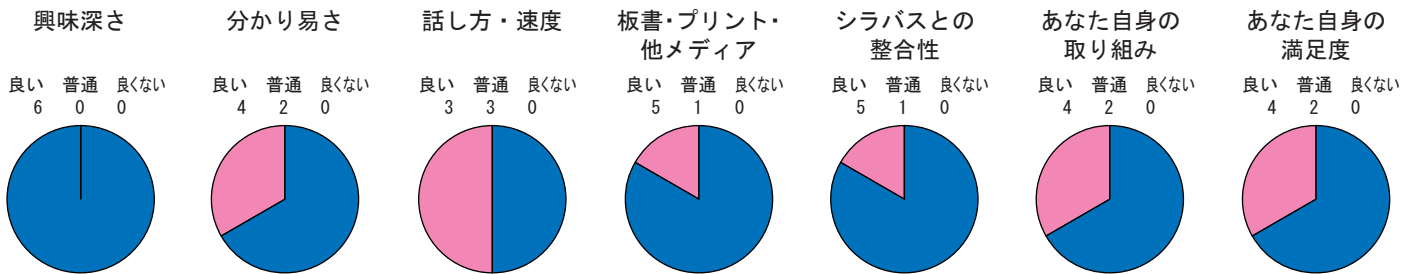


平成15年度3学期 生物学類授業評価

「総合科目 A 遺伝子がつくる文明」

回答者数：6名 履修申請生物学類生数：56名 (回答率10%)



良かった点

改善すべき点

- ・人数が多すぎて集中できない。遅れて入ってきた人がばらばらしていてよくなかった。椅子に座らず、床や、階段に座るのはどうかと。

担当教官のコメント

ほとんど全てのコメントは受講生の人数が多すぎることに由来しているようだ。確かに受講生の人数が多いことによる欠点は沢山ある。しかし、逆に多いことによる利点も少なからずある。最初の授業ではその例を具体的に挙げながら良く考えてこの科目を選択するように注意深くガイダンスをしてきたはずである。来年度以降も申請者数が増えることが予想されるので、これらのコメントを例に挙げて更にきちんとしたガイダンスをしたい。また質疑応答を手際よくこなすためにティーチングアシスタント(TA)との打ち合わせもきちんとしていきたい。その結果、人数が多くても気にならない授業環境づくりも最大限工夫したい。

実は、すべての総合科目の中で、この総合科目「遺伝子がつくる文明」は長年に渡り受講生の数が群を抜いて全学で1位なのである。申請者数が420-480名もあり、これだけの人数が受講できる教室が筑波大学にはないことから先ず受講制限を実施している。その際、特定の学群・学類を指定して受講制限を設定すべきではないという考えから、すでにシラバスに書いている通り1年生を優先している。それでも結果的には400名前後の受講生(今回は428名)を定員350名の教室で受け入れることになる。出席率が9割であることを想定してもこれは極めて異常なことなので、最初の授業の時に「できれば自主的に他の総合科目に変えてほしい」と、そして「どうしてもこの科目を受講したい場合はこの異常事態を受け入れる」という条件付きで正式に申請するよう繰り返し指導しているし、シラバスにもその旨を記載してある。したがって、全ての受講生はこの条件を受け入れたの上で受講しているはずなのに「人数が多すぎる」「人数を減らしてほしい」というコメントは理解に苦しむ。「自分は受講するが他人は制限して人数を減らせ」という主旨の身勝手なコメントは是非差し控えるようにして頂きたい。